



2009年11月7～8日 スーパーGT選手権 GT500クラス 参加台数14台  
サーキット ツインリンクもてぎ

第9戦が栃木県のツインリンクもてぎで行われました。

今回のレースではウエイトハンデがなく前車イコールコンディションでのレースでした。土曜日の練習走行では、年弘さんとマシンセッティングを進め、同時にタイヤの評価もしながら周回を重ねていきました。セッティングは2人が望んでいる方向に進んでいきました。走行終了後にミーティングを行い、予選セッティングを決めました。この結果、ノックダウンの予選で最初にアタックすることが決まりました。

予選・・・／9位

天候・・・晴れ

ノックダウン予選の前に、基準タイムをクリアするための予選が行なわれました。ここで2人とも練習で使ったタイヤでマシンセット確認しつつ基準タイムをクリアしていきました。そして、僕は予選シミュレーションのために予選用のタイヤでアタックに行きました。このアタックで5番手タイムを出すことに成功しました。最後に年弘さんに交代し、マシンセットの確認をして1回目の予選を終えました。

続いて、ノックダウン予選が始まりました。チームと話し、他のNSXについていけるようにタイミングをみてコースインしました。8号車の後ろで走ることができ、タイヤを温めながら間隔を調整しました。そして、3周目からアタックに入っていました。

マシンのバランス、グリップ感ともに想像以上に良くなっていたので、ブレーキングで攻めきることができませんでした。しかし、2周目のアタックでその分攻めて走り、4番手のタイムを出すことができました。

続くQ2では年弘さんがアタックに行きました。フロントタイヤがユーズドだった為、懸命な走りも8番手とほんの100分の2秒差の9番手タイムをなりQ3に進むことが出来ませんでした。

決勝・・・／3位

天候・・・晴れ

日曜日朝のフリー走行で、決勝に向けてセッティングを進めていきました。今回も固めのタイヤを決勝用を選びました。マシンセットと周回数を重ね磨耗のチェックを行ないました。

そして、迎えた14時にレースが始まりました。タイヤの温まりが悪く、コントロールが難しい中、年弘さんがポジションを上げながら走行していきました。

そして、規定周回数を過ぎた21周目にピットイン。今回奇襲作戦ともいえるタイヤ無交換でピットを離れました。離れる際にうまくスタートできずタイムロスしてしまいましたが、この作戦で5番手までポジションを上げることが出来ました。その後4番手の24号車がピットアウトしてきました。相手のタイヤが温まっていないうちに抜こうと、その週の90度コーナーでインに入ったのですが、止まりきることが出来ず、逆にポジションを一つ下げてしまいました。しかし、マシンの調子もよく前をいく38号車が24号車を抜きに行った隙を狙い自分も24号車をパスすることに成功しました。

その後38号車を追いかけて走行していた35周目に火災が発生しセーフティーカーが入りました。これにより前車との差がなくなりました。タイヤを冷やさないうちに左右にマシンを振りながら再スタートを待ちました。そして、39周を終えてレースが再開され38号車の背後についたまま1コーナーに入っていました。セーフティーカー中にタイヤが冷えないようにしていましたが、十分には温まっておらず、3コーナーのブレーキングで4輪ともロックしてしまいました。フロントタイヤにフ

ラットスポットを作ってしまったが、マシンの戦闘力が衰えることなく、むしろガソリンが軽くなるほど前に行くマシンとの差を詰めることができました。そして、50周目の3コーナーで38号車のブレーキングが手前だったためインに入っていました。そのままイン側のラインをキープしたままコーナーを曲がっている途中で38号車と軽く接触がありましたが、4番手に浮上することが出来ました。

終盤になってもブレーキング性能が良く、周回を重ねるごと差を詰めていきました。そして、51周目の1コーナーと2コーナーの間で6号車のインが開いた瞬間横に並び3番手に浮上しました。続く36号車に最終ラップに追いつきなんとしても抜こうとしたのですが、周回が足りず3番手で最終戦を終えました。

この結果により、ドライバーズポイントも5位という結果になりました。

今回、レースではタイヤ交換をしないという作戦で大きくポジションをあげ、最後まで追い上げることが出来たということで、年弘さん、チームに本当に感謝しています。今年勉強したことを発揮することが出来ました。しかし、ミスも何度もありピットアウトのときや、タイヤにダメージを与えてしまい反省すべき点がありました。これを見直し今後の経験にしたいと思います。

そして、今年1年このようなチャンスを与えてくださったホンダ様、ケーヒン様、リアル様、年弘さん、チームスタッフの皆さん、サポートしてくださった皆様本当にありがとうございました。今年の実験を元に来年度チャンスを頂いたときに、今年よりも結果を残せるようにがんばります。今後もよろしくお願いいたします。